



介護の現場から



グループホームで介護の仕事に携わって3年が経ちました。ここには認知症の人が入居していて、日々の業務は決して簡単なものではありません。それでも、この仕事を続けられる理由は、利用者一人ひとりから頂く「ありがとう」という言葉や、「あなたの顔を覚えてるよ」「あなたがいてよかった」というささやかな言葉です。その度に胸が暖かくなり、この仕事に従事する幸せを感じています。外国人として介護福祉養成学校を卒業してまだ1年目です。知識も経験も未熟で、失敗も少なくありません。特に印象に残っているのが去年のハロウィンのレクリエーションを担当した際、利用者の状態・好みを十分に理解しないまま形式的に準備を進めたことです。同僚からダメ出しをされ、試行錯誤を繰り返しました。最終的には、利用者が楽しく過ごせる内容を形にすることができ、何にも代えがたい達成感と、これからの糧となる学びを得ることができました。これからも、失敗から学び、感謝の気持ちを胸に、日々の業務に向き合い、利用者一人ひとりの「その人らしさ」を大切にしていきたいと思えます。そして、いつかこの経験を母国ベトナムに伝え、多くの人々に役立つ介護の仕組みを共有できるよう、努力を続けたいです。

(グループホーム共生の里：V介護福祉士)

